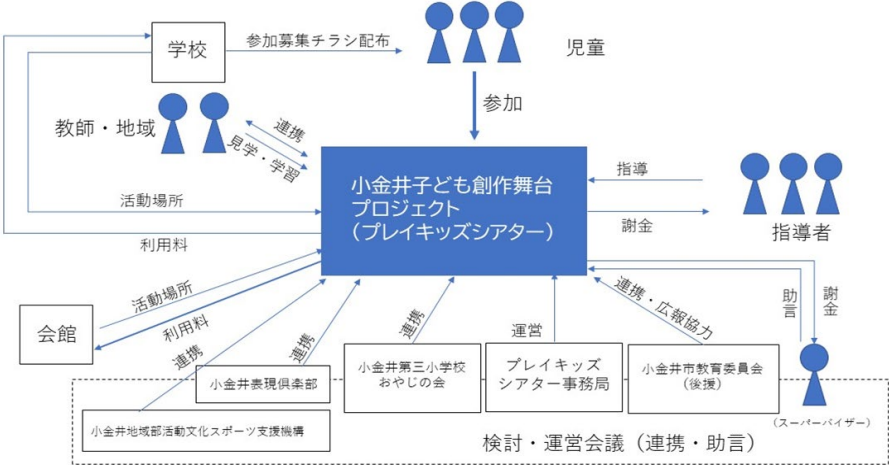


# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	一般社団法人プレイキッズシアター		
所在地	東京都練馬区	設立年	平成29年4月1日任意団体設立 令和4年3月24日 法人化
運営主体	こがねい子ども創作舞台プロジェクト実行委員会(一般社団法人プレイキッズシアター)		
事業目標	<p>仲間とゼロから創りあげる舞台発表を迎えるまでのプロセスを大切に したプログラムを行います。台本がある演劇ではなく、子どもたち自ら がお話を考え、それぞれの個性を活かしながら、多様性を認め合い、一 つの作品を創り上げます。このプロセスは、学校で行われている探究型 プログラムにも応用できることから、「こがねい子ども創作舞台プロ ジェクト」の活動に、教師が見学・参加することも可能とし、専門家た ちが進める演劇プログラムを体験できるような仕組みをつくり、学校で の文化活動のさらなる充実を助けます。</p> <p>子どもたち自らが創り上げ舞台発表を行うことにより、地域の方々に、 子どもたちのありのままの姿を見てもらう機会を設け、子ども達が考え ていることや大人たちに伝えたいことなど、内なる声と出会うような取 り組みを行ってきたプロセスを共有できます。また、長期間に渡る活動 を行うためには学校と地域の連携が不可欠であり、子ども達の文化的 な活動を中心に、風通しのよい学校と地域の連携へとつながることに 貢献します。</p> <p>また芸術文化活動に子どもたちが取り組むことで、子ども達の社会 性・協調性・自立・創造性・決断力・思考力が育まれることを目指しま す。さらに一人ではなく大勢の人が関わることで成しえるという舞台体 験は、子どもの自信と結びつくことに加え、アーティストとの出会いを 大切にし、創造性の高いアート体験を行うことで、このプロジェクトに 関わる人すべてが、子ども達の未来は様々な可能性に満ちていることに 気付くことをも目指します。</p>		

<p>きっかけ</p>	<p>小金井市PTA連合会会長斎藤瞳氏、軽井沢風越学園教諭（元小金井第三小学校教諭）、プレイキッズシアター代表むらまつひろこが、かねてより子どもたちが芸術文化活動を体験し、その環境を整える取組みを模索していたが、経済的な問題を解決できずにいたところ、地域文化倶楽部（仮称）の助成に申請をし、採択をいただいた。申請時に、小金井市教育長大熊雅士氏にも相談に行き、小金井市教育委員会のGIGAスクール構想の中に、「子どもたちの創造的な体験型の文化活動」が織り込まれていたこともあり、行政・地域・学校・専門家とタッグを組み、「こがねい子ども創造舞台プロジェクト」を立ち上げることに。</p>
<p>団体・組織等の連携</p>	 <p>協力：小金井地域部活動文化スポーツ支援機構          特定非営利活動法人遊び・文化NPO 小金井こらぼ/小金井三小おやじの会          後援：小金井市教育委員会/小金井市/小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会          小金井市立小中学校PTA連合会</p>
<p>活動場所</p>	<p>小金井第二中学校・マロンホール・宮地楽器小ホールなど</p>
<p>活動概要</p>	<p>舞台芸術活動として演劇を子どもたちが希望しても、地域指導者の不足や教師の働き方改革などにより学校のクラブ活動としての実施が難しいのが現状です。小金井市中学校で、演劇部がある学校は数校のみで、小学校においては演劇クラブがありません。そのため、演劇に挑戦したい子どもたちに機会を与えたいという、教師や地域のニーズが小金井市内に存在します。そこで、小金井市内の小・中学校と地域、小金井市教育委員会、そしてアーティストたちがチームとしてタッグを組み、子どもたちが質の高い舞台公演に至るまでの創作活動を行い、地域の人たちに鑑賞してもらう機会を創り上げています。小金井市に文化芸術活動を通し「子どもたちがありのままを自由に表現する場」がうまれることを目指します。</p>

## ○本事業による成果

こがねい子ども創作舞台プロジェクトは、文化庁地域文化倶楽部の助成を受け、2年目の活動を行った。小金井市内の中学校で演劇部がある学校は数校であり、また小学校には演劇クラブが存在しない。そのため、子ども達は演劇をやってみたい、脚本を書いたり、演出をしてみたいと思っても経験できる場所がない。そのような環境でもあり、劇や舞台の専門家たちを招聘して行う、このプロジェクトは、小金井市のニーズに非常にマッチしている。小金井市内の小学校・中学校全てに当プログラムの応募チラシを配布したところ、定員をはるかに超える30名近い応募があり、子ども達が学校では実施できない演劇活動をやりたいという要望が今年も多いことが伺えた。こがねい子ども創作舞台プロジェクトは、台本があるものを、覚えて演じるスタイルではなく、子ども達とゼロから創りあげる舞台創作のスタイルをとっている。そのため日頃、脚本や小説を書いている子ども達なども参加しており、舞台の脚本や構成なども、専門家たちと共に体験できる場にもなり、芸術文化活動を多角的に技術指導することにも繋がった。

また組織体制としても2年目として発展した。1年目の活動後半に、地域サイドが、「小金井地域部活動文化スポーツ支援機構」「小金井表現倶楽部」の二つの団体を結成していたが、この二つの団体をサポートする地域団体がさらに増えたことが成果として大きい。NP0法人小金井コラボが子ども達の部活動における芸術体験の場をつくる活動に賛同をしてくれ、2年目から活動に参加。事務局としての機能を担ってくれた。サポートする団体が増えたことにより細やかな参加者への連絡や、場所の確保などを業務分担できたことで、専門家たちがより子ども達と演劇活動に集中し、活動できる環境が整った。

さらに、活動場所である小金井市内に、東京学芸大学がある。この東京学芸大学で演劇や表現教育を専攻している学生たちが実施研修として、当プロジェクトに3名参加。将来教員になる学生もいたため、指導のための研修制度も試験的に実施。また東京学芸大学教職大学院の助教授である渡辺貴裕氏にも見学にきてもらい、アドバイスをいただくなど、子ども達の芸術体験を部活動として地域が支えていく点や、また教員たちへの指導などについて話し合いがもたれ、3年目へ向けて繋がる活動が今回行えたことの成果も大きい。

小金井市内の学校への影響についてであるが、1年目から学校現場での教員たちの技術的向上のために繋がりを大切に取り組んでいたことが高じ、2022年6月に、小金井市第三小学校の教員研修において、当プロジェクトの専門家が講師として招聘され、教員への研修を行うことに発展した。

また、今回もプロジェクトにおいて、文化芸術活動が、子ども達の学びにとってどのような効果があるのかを、豊橋創造大学の加藤教授の協力をいただき、行った。その報告書は別紙で添付する。

参加者からのアンケートからは「またやりたい」「積極的になった」「違う学校の友だちと舞台が創れて自信がついた」「表現力がついた」などの声が集まっている。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

児童・生徒たちは、演劇部に入りたいが、学校にクラブ活動としても部活動としても演劇部がない状況である。また学校でも文化祭・学芸会などの実施が感染症予防のために実施されない（されたとしても簡易化）ため、子ども達は、そもそも、学校内で体験することができない状況である。学校の教員が子ども達のやりたい演劇に向き合うことは、その他の業務が多忙なため、実施できずにいる。その点、専門家たちは、その道のプロフェッショナルであるため、子ども達と向き合い、子ども達のポテンシャルを最大限に引きだし、さらに活動最終日には、小金井宮地楽器ホールの小ホールにて、公演発表を行った。また指導者たちは、技術をただ教えるのではなく、子ども達の自発的な取り組みを最大限に活かし、子ども達に寄り添いながら活動ができる専門家たちを招聘。子ども達は音響・照明・美術の専門家スタッフとの交流も図り、舞台を支える専門家たちの仕事についても学び、触れる機会にもなった。子ども達は自分達の演劇の舞台を創る経験を通して、舞台の技術的な学びを実体験できる成果は大きく、保護者たちからも子ども達の可能性が広がっていると高評価を得ている。また、活動場所である小金井市には、東京学芸大学がある。この東京学芸大学の大学院生たちが今年から参加。演劇専攻、演劇教育専攻の学生たちがこのプロジェクトを実地研修として活動に参加。芸術系・芸術教育系の学生たちにとっても、実習を積む現場がないことが課題であったことが、このプロジェクトと繋がり、実習を行ったことで、大学院生たちにとっても大きな学びとなった。さらに、3年目は、大学院生だけでなく、学部生の受け入れについても検討を始めたところである。また大学院生が活動に参加したことにより、参加の子ども達にとっても大きな影響があった。芸術系の大学が存在し、大学院で、どのような学びがあるのか、実際大学院生たちと共に活動をする中で、知っていくことにも繋がり、子ども達の将来の選択肢の幅が広がることに繋がっている。

## ○運営上の工夫

「こがねい子ども創作舞台プロジェクト」は2年目の活動となり、指導者たちの幅と厚みが増した2年目となった。1年目に地域ボランティアとして参加（演劇経験者）し研修を受けた者が、2年目は、演出助手として大きな役割を果たす人材に成長した。また、当プロジェクトの知名度が増したことにより、小金井在住の演劇関係者たちからのコンタクトが増え、継続をしていくことで地域の指導者の養成や量の確保が充実することに繋がることを実感。またこの取組みに賛同をし、積極的に現場でサポートをしてくれる保護者が2年目は増え、記録などをお願いすることとなった。参加者の募集に関しては、小金井市全ての公立小学校・中学校に対して募集チラシを配布。20名募集のところ、募集定員をはるかに超える応募があり、2年目の今回も抽選で参加者を決定。募集定員よりは、2名多く、22名の参加者での活動となった。募集人数を増やすことも考えられるが、今回の予算・会場確保の問題から、22名を最大とし受け入れることとなった。参加者の中には、不登校の子ども、学校でいじめられている子ども、発達障害の子どもたちも含まれていたが、この芸術体験を通して、子ども達が見事に舞台上で表現をし、芸術文化体験が子ども達に与える学びの大きさを、関係者たちは目の当たりにすることにもなった。

また、東京経済新聞オンライン版 教育特集に、当プロジェクトが特集として報道されることにもなった。地域・行政・学校・専門家たちがタッグを組み、子ども達の芸術体験の場を生み出していることが詳しく書かれてた記事は、FBでは、シェア記事として1位にもなり、YAHOOニュースにも流れることとなった。

この助成事業の良さは、学校単位での活動ではなく、演劇活動を行いたい機会がなく諦めている子ども達に機会を与えてあげられることでもある。また先生一人では実施できないが、子ども達の演劇活動に取り組みたいと考えている先生たちが、学校の枠にとらわれずに参加できることにあ

る。  
小金井市、小金井市教育委員会。特に大熊教育長が、この活動をバックアップしてくれていることは大きく、小金井市内の小中学校で、活動場所を確保できていることや、保護者やPTA連合会との連携も可能としている。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

「こがねい子ども創作舞台プロジェクト」は、小金井市・小金井市教育委員会・小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会・小金井市立小中学校PTA連合会の後援。また小金井地域部活動文化スポーツ支援機構・特定非営利活動法人遊び・文化NP0 小金井こらぼ・小金井三小おやじの会の協力で実施。これらの団体に加えて、現役の教員たちが加わり、こがねい子ども創作舞台プロジェクト実行委員会を結成している。2年目の活動となり、この実行委員会の機能がさらに充実してきた。参加者への連絡・場所の確保・地域ボランティア・保護者への対応などの多くを実行委員会が担うことを可能とし、活動現場での子ども達の対応など、人員確保ができたことにより、より手厚くサポートすることができた。また今年度は、新たに小金井市立第二中学校を活動場所として使用させてもらうこともでき、学校との協力連携が充実してきている。

課題の一つ目としては、参加者の会費である。会費がある活動にすると、小金井市内公立小中学校に募集チラシが配布できない。配布できないと、参加したい子ども達に直接情報が届かないという問題が生じる。そのため、2年目も会費は無料で活動を行った。また参加をしたい子どもであれば、誰でも参加できる窓口を広げておきたいという実行委員の願いも会費無料の一つに挙げられる。しかし、今後の資金繰りを考えると会費の徴収を考えていかねばならない。この活動が会費を払える特定の子ども達へ向けて活動をしていくのか、もしくは、公教育のサポートとして誰でも希望する子ども達は参加できるというスタンスを貫いていくのかは課題である。

課題の二つ目は、関わる人が増えてきたことでの実行委員会の規模の拡大+組織化である。また研修制度を整えていく必要があるが、その経費の確保がないため、現場研修で対応可能な人数には制限がある。小金井市内の人材バンクを構築していくためにも、予算の確保を行い、研修制度を整え、人材バンクの構築を行っていくことが課題である。

保険については、一般社団法人プレイキッズシアターが年間で契約加入をしている保険で活動を行っている。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

学校の部活動を段階的に地域移行していくために、ストーリーを描き、段階的に取り組んでいる。1年目は、地域サイドで団体を立ち上げ、こがねい子ども創作舞台プロジェクト実行委員会を発足。2年目は、実行委員会に業務の一部を託し、一般社団法人プレイキッズシアターとの業務の分担を行う。資金面の調達については、プレイキッズシアターが文化庁への助成金申請などを行い、資金確保を行う。そして令和5年度の3年目は、業務の分担の割合を、実行委員会を増やし、また様々な決定事項を、実行委員会中心に進めていく。小金井市に資金調達について提案をしたこともあるが、市長が変わったばかりでもあり、小金井市からの資金的な協力は得られていない。令和5年度も、引き続き、プレイキッズシアターが文化庁地域文化倶楽部への助成金申請を行い、資金調達を試みる。助成金申請と同時に、実行委員会の中に、地元民間企業を組み入れることを3年目の取組みとして試み、民間企業からの資金調達について模索する。地域へ移行していくにあたり、やはりこの資金調達が何よりもネックとなる。実行委員会の良さは、互いに補いながら、それぞれの特性を活かし、プロジェクトを支えることができる。しかし、活動資金の確保、資金の立て替えなどの責任については、多くの地域ボランティアで結成されている実行委員会方式では、担いきれない部分がある。ここは引き続きプレイキッズシアターがサポートしながら、地域移行についても、考えていく。実際、自治体が利用できる補助金制度や、民間の基金が継続的に採択される制度を利用したいが、現状としてそのような制度が見つからない状況であり、急務である。

芸術文化活動を子ども達が取り組むことによってどのような内発的な効果をもたらすのか、豊橋創造大学の加藤知佳子教授の研究が2年目を終えた。社会に訴えていくためにもこのエビデンスの活用を3年目は試みる計画である。

また、この活動が持続可能な活動にしていくために、決まった場所・決まった時間で、通年として行われていく必要があるという意見もある。小金井市の子ども達のサードプレイスとして、「表現・アート」が可能な場所をつくることができないか。先生の働き方改革、さらには社会問題の解決にも直結できる場所づくりについて、現在打ち合わせ進行中である。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小金井市内小・中学生/人数 22名
	学校名	東小学校・第一小学校・第二小学校・第三小学校・前原小学校・緑小学校・南小学校・東中学校・緑中学校
	募集方法	募集チラシ配布(小金井市全小中学校)
指導者	人数等	表現ワークショップ指導者5名(外部人材の活用)・地域スタッフ2名
	募集方法	地域スタッフは公募。指導者は外部人材として、子ども達との活動の経験値がある人材を実行委員会が選定。
参加者の移動手段		保護者による送迎・公共交通機関
活動費用	指導者謝金等	講師謝金 10,000円～15,000円/回 年8-10回程度
	その他	施設使用料 WS時 3000円/回・舞台発表時ホール 200,000円 舞台発表時 音響・照明・舞台・撮影スタッフ料50万
活動財源	会費	舞台発表応援チケット代
	その他	なし
スケジュール	基本活動	10月～12月(約3ヶ月)表現ワークショップ・稽古 12月28日 舞台発表
	年間	4～打合せ 9月チラシ作成/配布・募集開始 10月～12月(約3ヶ月)表現ワークショップ・稽古 12月28日 舞台発表
保険加入等		損害保険 参加者全員

## 【活動の様子（写真添付）】





**お話をつくって、舞台で発表!**  
人前に出るのが苦手。新しいことにチャレンジしたい。  
みんなみんな、集まれー。

**こがねい**  
**子ども創作舞台プロジェクト**

**参加費 無料**  
**定員 20名**  
(対象) 小学4年生～中学3年生

**参加者募集**

**プロジェクト開始 2022.10.16(日)**  
**(全15回) スタート!**

**舞台発表**  
小金井  
宮地楽器ホール  
小ホール

**主な活動場所**  
市内小中学校施設ほか。  
裏面のスケジュール欄を  
ご参照下さい。

**参加申込み締め切り**  
**2022.09.30(金) 23:59**

お申込みについての詳細は裏面にて。  
※申し込みが定員を超えた場合は抽選となります。

主催：一般社団法人 **プレイキッズシアター**  
こがねい子ども創作舞台プロジェクト実行委員会  
協力：小金井地域活動文化スポーツ支援機構/  
特定非営利活動法人 遊び・文化NPO 小金井こらぼ/小金井三小おやじの会  
【助成事業】文化庁 令和3年度地域部活動推進事業及び地域文化倶楽部（仮称）創設支援採択事業

**さあ、こしもはじまるよー。**  
**いっぱいあそぼうー!**  
**みんなおいでー!**

**スケジュール**

**子ども創作舞台プロジェクト**

10月16日(日)	13:00~14:30	小金井第一中学校
10月23日(日)	14:00~16:00	マロンホール
10月30日(日)	14:00~16:00	マロンホール
11月13日(日)	14:00~16:00	マロンホール
11月26日(土)	14:00~17:00	二子中央マロンホール
11月27日(日)	14:00~17:00	二子中央マロンホール
12月04日(日)	14:00~17:00	二子中央マロンホール
12月10日(土)	14:00~17:00	二子中央マロンホール
12月11日(日)	10:00~17:00	二子中央マロンホール
12月17日(土)	10:00~17:00	二子中央マロンホール
12月18日(日)	10:00~17:00	二子中央マロンホール
12月19日(月)	18:00~20:00	宮地楽器小ホール
12月25日(日)	14:00~17:00	二子中央マロンホール
12月26日(月)	(予定日)	調整中

**11月19日(火) 09:00~20:00** 宮地楽器小ホール  
**12月28日(水) ①11:00開演 12:00開演 ②15:00開演 16:00開演** 宮地楽器小ホール

※会場・時間に関して変更になる場合があります。

**子どもたちの応援団大募集!**  
(地域・保護者・学生ボランティア)

子どもたちと一緒に「観覧席」を設けたり、活動場所での見守りや活動記録のための撮影など、いろいろなところで手が足りません！  
子どもたちの楽しい活動を見守りながら活動です。  
どうぞよろしくお願いいたします。お気軽にお問合せください。

**お申し込み**  
※2万円(カードをご利用下さい)。  
申込みフォームからお申し込みください。

**お問い合わせ**  
koganei.kodomotheater@gmail.com

**子どもたちの「やってみたい」の想いをカタチに!**

【小金井子ども創作舞台プロジェクト】は、2022年2月に1回目のシーズンを終えました。  
子どもたちが自分自身で表現できる場を、舞台を創り上げるまでのプロセスを大切に、誰でもチャレンジできる取り組みです。  
子どもたちの「やってみたい」をカタチに、想いをカタチに、子どもたちが自由に表現できる場を創り出しています。誰かと比べて、批判したりせず、個性を活かしながらゼロから活動をつくり、仲間たちと共に世界に一つだけの舞台作品を創り上げ、公開発表を行います。各地で演劇教育に取り組んでいる専門家が再び結果を報告します。  
中心にいるのは「子どもたち」です。専門スタッフだけでなく、学校の先生、保護者のみなさん、そして地域の方々々と手を繋いで生まれるこの貴重な経験は新しいシーズンが始まります。

大黒 健士 (小金井市教育委員会) 加藤 知子 (豊橋創造大学 理学療法学科) 村上 聡 (豊橋創造大学 理学療法学科) 水津由紀 (特定非営利活動法人遊び・文化NPO 小金井こらぼ) 前田 真平 (小金井地域活動文化スポーツ支援機構) 中村まゆみ (プレイキッズシアター代表)

この活動は、団体誌や文化芸術への報告のため、写真撮影を行います。撮影した写真や映像等は、広報にHPやSNS、刊行物等に掲載することがあります。  
なお、文化芸術への報告に提出した写真は、官公庁が定める規格に基づき、助成事業以外に目的に使用されません。

**こがねい**  
**子ども創作舞台プロジェクト**

**どんなお話が出来たかな?**  
**お話をつくって、舞台で発表!**  
**みんなであそびに来てねー!**  
**まってるよー★**

**舞台発表**  
小金井  
宮地楽器ホール  
小ホール

**応援券**  
おとな 1,500円  
こども 1,000円

**事前申込制**

**こがねのこ**  
**「〜シン×しん〜」**

**日時**  
**2022.12.28. (水)**  
**①11:00 開演 12:00 終演**  
**②15:00 開演 16:00 終演**  
開場は30分前です。  
内容は同じものでキャストの変更もありません。

主催：一般社団法人 **プレイキッズシアター**  
こがねい子ども創作舞台プロジェクト実行委員会  
協力：小金井地域活動文化スポーツ支援機構/特定非営利活動法人 遊び・文化NPO 小金井こらぼ/小金井三小おやじの会  
後援：小金井市教育委員会/小金井市/小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会/小金井市立小中学校PTA連合会  
【助成事業】文化庁 令和4年度地域部活動推進事業及び地域文化倶楽部（仮称）創設支援採択事業

**しゅつえん**

**Kくん**  
**ゆめほ**  
**ちゃとら!**  
**かやこ**  
**O! MaMe**  
**まつりく**  
**たまごかけごはん**  
**かほ**  
**さな**  
**HARU**  
**Momoharu**  
**めぐみ**  
**TAKAO**  
**BlackTK**  
**なな**  
**Hagachi**  
**みなくち**  
**Mizuki**  
**Shurei**  
**みつちゃん**  
**きほ**  
**さきな**

**映像班**  
こう  
こう  
こう

(出演者名、制作名は順不同です)

**子どもたちによりよい文化芸術に触れる機会を。**

子どもたちが舞台芸術活動として演劇を体験し、学校のクラブ活動で行うことはさまざまな事情があり、実施することが難しいものになっています。そのような環境下からこのプロジェクトは立ち上がり、創作舞台の専門家であるプレイキッズシアターさんと共に子どもたちが一つの舞台を創り上げていきます。中心にいるのは「子どもたち」です。そして専門スタッフ、学校の先生たち、保護者のみなさん。今回から「特定非営利活動法人 遊び・文化NPO 小金井こらぼ」のみなさんも協賛することになりました。さまざまな人々にお力を貸していただき、ありがとうございます。楽しんでいただければ幸いです。

こがねい子ども創作舞台プロジェクト実行委員会 メンバー  
大黒 健士 (小金井市教育委員会) 加藤 知子 (豊橋創造大学 理学療法学科) 村上 聡 (豊橋創造大学 理学療法学科) 水津由紀 (特定非営利活動法人遊び・文化NPO 小金井こらぼ) 前田 真平 (小金井地域活動文化スポーツ支援機構) 中村まゆみ (プレイキッズシアター代表)

企画・制作 **プレイキッズシアター PLAY KIDS Theater**

この活動は、団体誌や文化芸術への報告のため、写真撮影を行います。撮影した写真や映像等は、広報にHPやSNS、刊行物等に掲載することがあります。  
なお、文化芸術への報告に提出した写真は、官公庁が定める規格に基づき、助成事業以外に目的に使用されません。

## 「こがねい子ども創作舞台プロジェクト 2022」の成果に関する心理学的分析

文責：加藤知佳子

(要旨) 2 回目の実施となる今回は、特に共感性とレジリエンスに焦点を当てて、調査・分析を行った。

共感性については、プロジェクトの事前・事後で、統計的に有意に向上した。

一方、レジリエンスについては、有意な変化は検出されなかった。

舞台を創作するまでには、それぞれの意見を安心して伝えられる信頼関係が構築される。そのような関係の中で他者の意見を理解しようと努めることによって、伝えようと努力することの意義を実感するとともに、自分も他者も無条件に尊重されるべき存在であることが体感されると推測される。舞台創作活動には、言語による明示的な指導なしに、このような共感性を醸成する力があることが示されたとと言える。

0) 対象：本プロジェクトに参加した児童 22 名（4 年生から中学 1 年生まで、それぞれ、7 名、5 名、8 名、2 名。女児 12 名、男児 10 名）。

1) 方法 共感性については、桜井(1986)の児童用共感測定尺度(Empathy Scale for Children: ESC)の短縮版 ESC II (9 項目、5 段階評定)を使用した。また、レジリエンスについては、中島(2020)の小学生用レジリエンス尺度(20 項目、5 段階評定)を用いた。

その他、援助場面における原因帰属について検討するための質問項目、プロジェクトの前後での自分の変化などについての自由記述による回答を依頼した。

### 2) 結果

#### ① 共感性について

欠損値の多い 2 名を除き、因子分析を行った結果、因子負荷量の低い 2 項目を除いて 1 因子構造が妥当であると判断された。

尺度得点を計算し、事前・事後の変化について、1 要因参加者内分散分析を行ったところ、有意差が検出された( $F(1, 19)=5.19, p<.05$ ) (表 1)。すなわち、プロジェクトの事前・事後で共感性が向上したことが示された。性差、学年差は検出されなかった。

表 1 共感性の変化 (尺度得点)

	平均	標準偏差
事前	3.6571	0.7659
事後	3.9643	0.7757

#### ② レジリエンスについて

欠損値の多い 2 名を除き、因子分析を行ったところ、因子負荷量の低い 3 項目を除き、4 因子構造が妥当であると判断された。

尺度得点を計算し、事前・事後の変化について、分散分析を行ったが、有意差は検出されなかった( $F(1, 19)=1.4316, p=0.33$ ) (図1)。

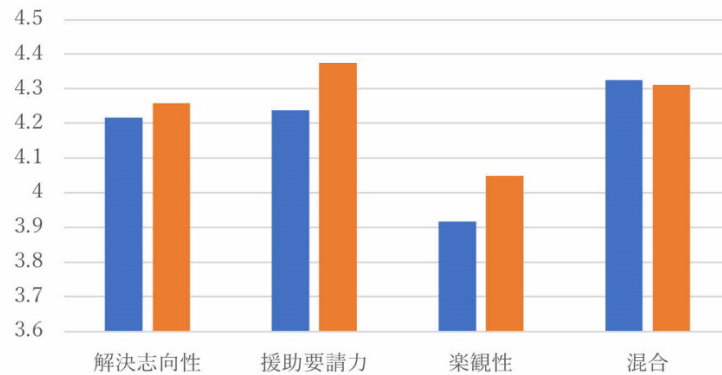


図1 レジリエンスの変化 (尺度得点の平均)

### 3) 考察

本プロジェクトでは、専門家が創作した台本を演じるのではなく、子どもたち自身が舞台化する物語、台本を創作していく。そのため、舞台創作に入る前には、大変慎重に、どのような意見を言ってもよい信頼関係が構築される。その中ではもちろん、自分とは異なる意見が交わされることもあるし、自分の意見が採用されないこともでてくる。しかし、舞台を創作するという共通の目標を掲げて、相手の意見を理解しようと努めざるをえない経験を通して、子どもたちは、必ずしも自分と同じ意見ではない他者の考え、感情、心情に共感する経験を積んでいく。

舞台創作プロジェクトにおいては、もちろん、言語によって明示的に、他者に共感するように指示されるわけではない。安心できる環境で、楽しみながら、自分とは異なる他者の意見を理解する経験を通して、他者に共感することの意義や重要性を会得していくのだと考えられる。

自分の意見が採用されなかったり、拒否されたりする経験は、レジリエンスも高めると推測されたが、今回の調査では統計的に有意な差は検出されなかった。しかし、レジリエンスを構成する下位尺度による違いや子どもたちの特性による影響を加味した分析などが、今後の課題として残されている。

### 引用文献

桜井茂男(1986) 児童における共感と向社会的行動の関係 教育心理学研究, 34, 342-346. ESC-II 10項目、5段階評定

中島寛(2020) 小学生を対象としたレジリエンス尺度の開発 宮崎大学教育学部紀要, 94, 129-138  
レジリエンス尺度 20項目 5段階評定